

# 2014年3月期第1四半期 決算説明会



Money Partners Group

株式会社マネーパートナーズグループ



本資料は、株式会社マネーパートナーズグループの事業及び業界動向についての株式会社マネーパートナーズグループによる現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。

これらの将来の展望に関する表明はさまざまなリスクや不確実性がつきまっています。既に知られたもしくははまだ知られていないリスク、不確かさその他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。

株式会社マネーパートナーズグループは将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なるか、さらに悪いこともありえます。

本資料における将来の展望に関する表明は、2013年8月2日現在において利用可能な情報に基づいて、株式会社マネーパートナーズグループにより2013年8月2日現在においてなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。

- I . 2014年3月期第1四半期の決算及び事業の概況
- II . 2014年3月期第1四半期の重点施策の進捗状況
- III . 今後の目指すべき方向性
- IV . 当社の経営目標及び株主還元について

# I .2014年3月期第1四半期の決算及び事業の概況





# 2014年3月期第1四半期 決算概況と影響ファクター

	2013/3期 4Q 【2013/1 ~ 2013/3】	2014/3期 1Q 【2013/4 ~ 2013/6】	前四半期 対比増減
外国為替取引高	※6,026億通貨単位	5,948億通貨単位	△1.3%
営業収益	1,504百万円	1,569百万円	4.4%
経常利益	224百万円	427百万円	90.3%

※ ホワイトラベル取引高含む

## 【第1四半期の損益影響ファクター】

取引高

- ・ ホワイトラベルを除く取引高は前四半期比4.5%増  
(4Q取引高全体に占めるホワイトラベルの取引高割合は5.5%)

営業収益



- ・ 取引高当たり収益性の低い米ドル／円取引高割合の増加
- ・ ボラティリティ上昇によるカバースプレッド拡大



- ・ **基幹系システム刷新による効果の本格化**
- ・ カバー取引手法の最適化への取組み継続による取引高当たり収益性の改善

経常利益

- ・ システム維持コスト等のスリム化によるシステム固定費の削減



## 2014年3月期第1四半期 連結決算の総括とポイント

- ① 口座数は22万口座と順調に拡大。預り証拠金も口座数の拡大に伴い前四半期比7.6%増の42,327百万円に。

総口座数	220,361口座	2013/3期4Q末比	3.0%増
預り証拠金	42,327百万円	2013/3期4Q末比	7.6%増

- ② 第1四半期(2013/4-6)の外国為替取引高は、ホワイトラベル取引終了の影響はあるものの、自社顧客の取引高が増加したため、前四半期比1.3%減の横ばいに。

4-6月取引高	5,948億通貨単位	2013/1-3月比	1.3%減
---------	------------	------------	-------

※取引高には2011年8月より開始したCFDに関する数値を含めております。

- ③ 営業収益はカバー取引手法の最適化等により1,569百万円(前四半期比4.4%増)、経常利益は427百万円(前四半期比90.3%増)となった。
- ④ 四半期純利益は前四半期比98.8%増の247百万円となった。

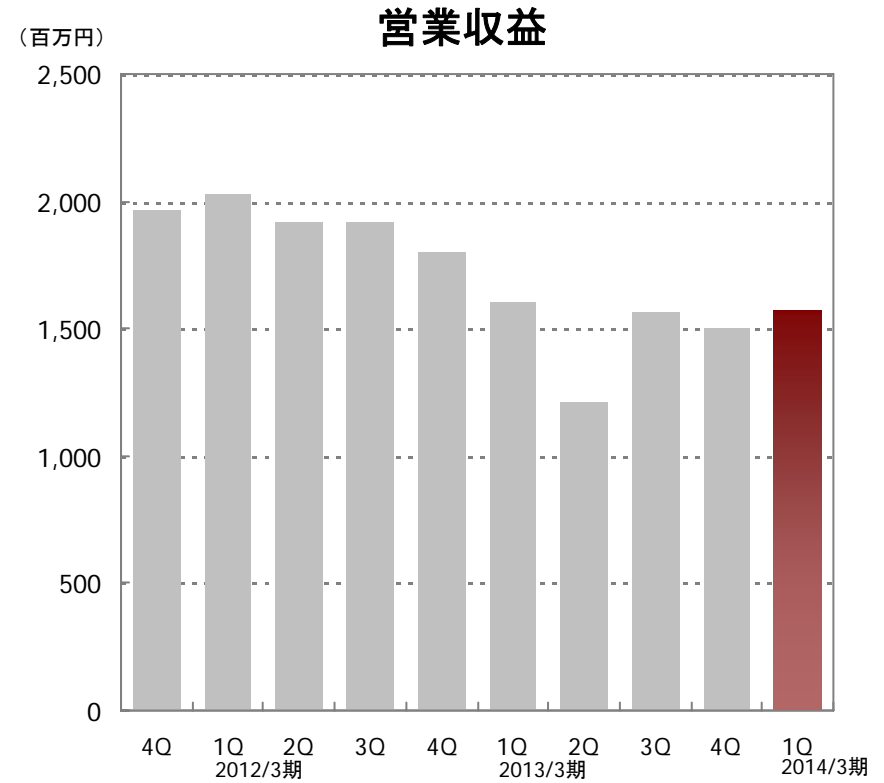
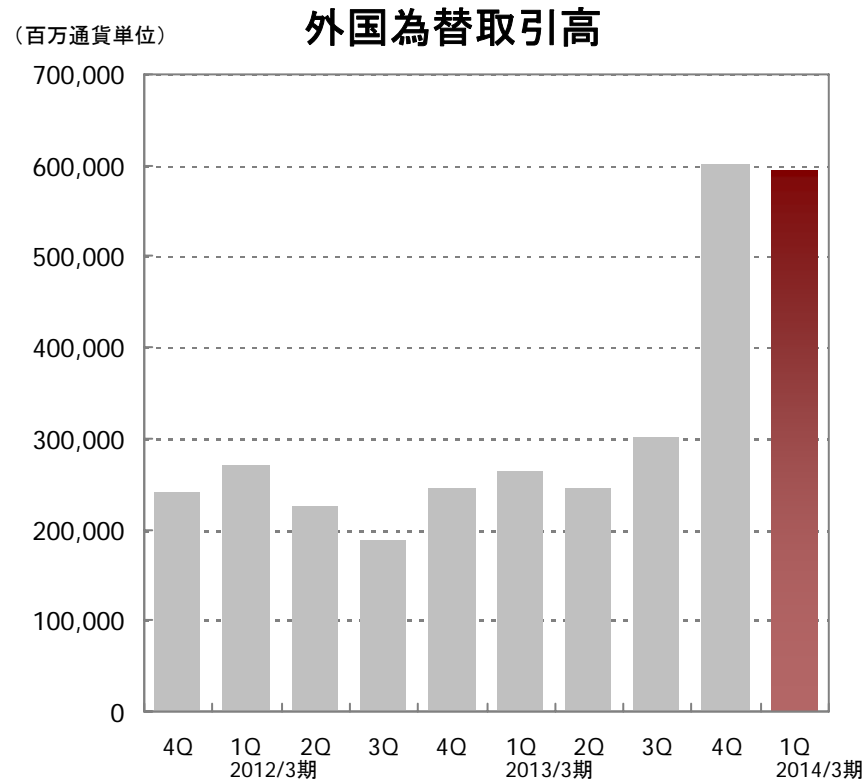
- ✓ 取引高当たりの収益性の低い通貨ペアの取引高割合が増加しているものの、カバー取引手法の最適化等の取組みが功を奏し、営業収益は前四半期比4.4%増加。
- ✓ 前四半期中にホワイトラベル取引が終了した影響はあるものの、外国為替証拠金取引への注目の高まり等により顧客口座数は増加し、自社顧客の外国為替取引高が伸びた結果、前四半期比1.3%減少に止まる。



# 事業数値の動向

Money Partners Group

## ■ 外国為替取引高及び営業収益の推移



(単位＝外国為替取引高：百万通貨単位、営業収益：百万円)

	11/3期 4Q	12/3期 1Q	12/3期 2Q	12/3期 3Q	12/3期 4Q	13/3期 1Q	13/3期 2Q	13/3期 3Q	13/3期 4Q	14/3期 1Q
外国為替取引高	240,340	270,379	225,346	188,609	244,236	264,466	245,265	302,966	602,634	594,850
営業収益	1,969	2,027	1,922	1,922	1,799	1,604	1,213	1,563	1,504	1,569

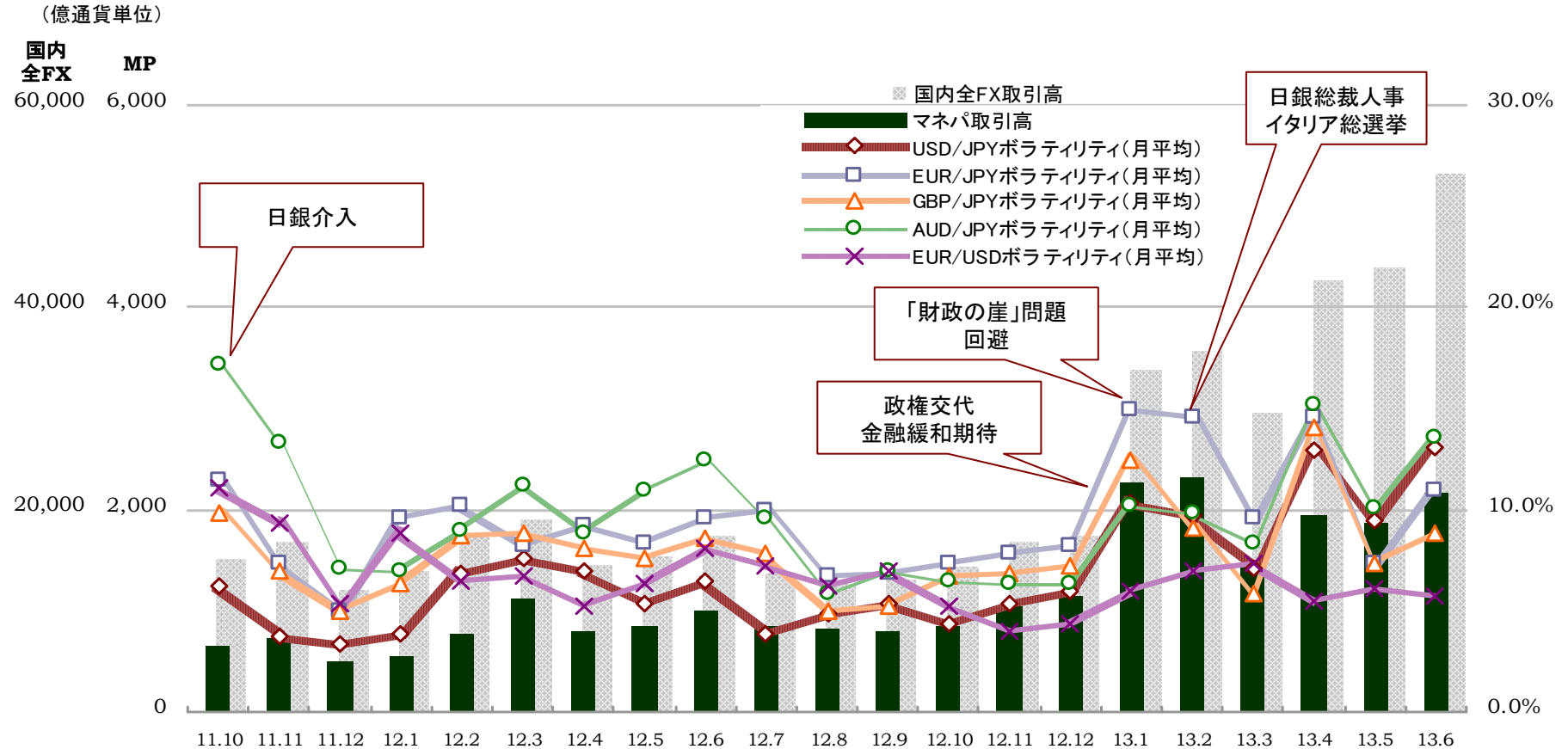
※ それぞれの計数には2011年8月より開始したCFDに関する数値を含めております。



# 市場環境と事業の動向

Money Partners Group

## 取引高・主要通貨ペア日次平均ボラティリティの推移



日銀の追加緩和策の決定や中国の景気減速懸念、FRBによる量的金融緩和の縮小発表を背景が大きく相場に影響し、ボラティリティは高い水準を維持。

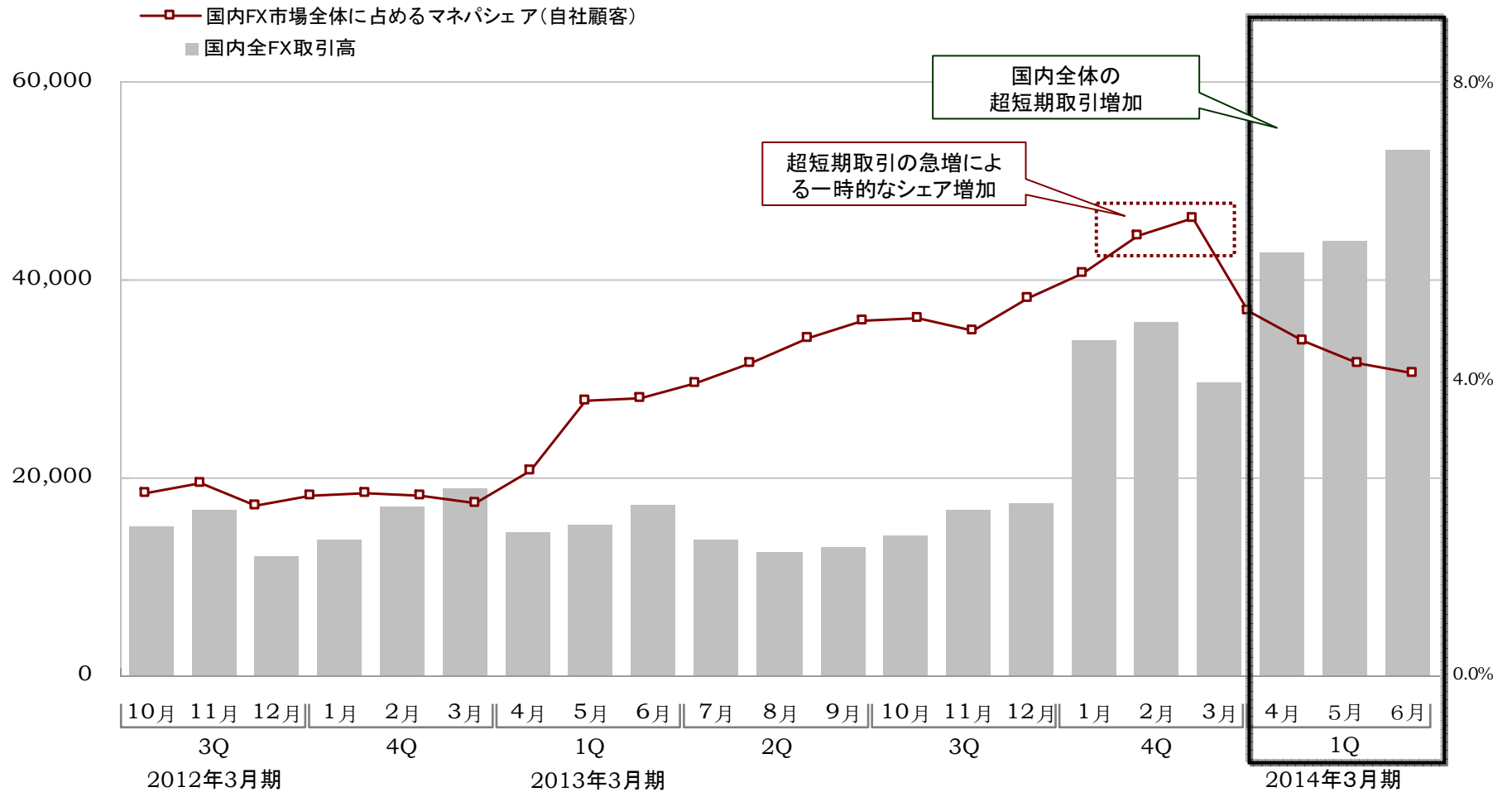




Money Partners Group

# 市場環境と事業の動向

## 国内全FX取引高と当社シェアの推移



前四半期において急増していた超短期取引の減少や証券会社などのセカンドパーティのシェアが向上した結果、シェアは減少。業界全体に超短期取引が増加しているものと思われる。



# 四半期業績推移

Money Partners Group

## ■ 四半期毎のP/L主要数値推移

単位:百万円

	2012/3期			2013/3期				2014/3期	前四半期 対比増減
	2Q (7月~9月)	3Q (10月~12月)	4Q (1月~3月)	1Q (4月~6月)	2Q (7月~9月)	3Q (10月~12月)	4Q (1月~3月)	1Q (4月~6月)	
営業収益	1,922	1,922	1,799	1,604	1,213	1,563	1,504	<b>1,569</b>	<b>4.4%</b>
受入手数料	4	2	3	2	1	6	17	<b>3</b>	<b>△82.5%</b>
トレーディング損益	1,903	1,910	1,786	1,592	1,202	1,548	1,473	<b>1,563</b>	<b>6.1%</b>
金融収益	4	3	4	4	4	4	3	<b>2</b>	<b>△27.9%</b>
その他の売上高	9	5	5	4	4	4	9	<b>0</b>	<b>△97.8%</b>
金融費用	38	37	32	21	22	22	21	<b>16</b>	<b>△22.2%</b>
売上原価	5	3	3	2	2	2	5	<b>0</b>	<b>△90.0%</b>
純営業収益	1,878	1,882	1,763	1,579	1,188	1,538	1,476	<b>1,552</b>	<b>5.1%</b>
販売費・一般管理費	1,801	1,641	1,633	1,527	1,332	1,338	1,260	<b>1,112</b>	<b>△11.7%</b>
営業利益	77	241	129	52	△143	199	216	<b>440</b>	<b>103.6%</b>
経常利益	67	237	123	29	△142	200	224	<b>427</b>	<b>90.3%</b>
税金等調整前四半期純利益	92	237	117	29	△239	198	202	<b>412</b>	<b>103.9%</b>
四半期純利益	80	134	66	16	△167	122	124	<b>247</b>	<b>98.8%</b>
営業収益経常利益率	3.5%	12.3%	6.9%	1.9%	△11.8%	12.8%	14.9%	<b>27.2%</b>	

1. 取引高当たりの収益性の改善等により営業収益は増加し前四半期比65百万円増の1,569百万円、四半期純利益は前四半期比123百万円増の247百万円となり、前期通期の水準を超過。
2. 営業外費用として、上場関連費用18百万円を計上したため経常利益が前四半期比90.3%増に。



# 四半期販管費推移

Money Partners Group

## ■ 販管費内訳及び主要費目の推移

単位: 百万円

	2012/3期			2013/3期				2014/3期	前四半期 対比増減
	2Q (7月~9月)	3Q (10月~12月)	4Q (1月~3月)	1Q (4月~6月)	2Q (7月~9月)	3Q (10月~12月)	4Q (1月~3月)	1Q (4月~6月)	
取引関係費	915	781	767	634	481	439	400	<b>259</b>	<b>△35.3%</b>
人件費	244	263	261	256	242	235	244	<b>257</b>	<b>5.1%</b>
不動産関係費	248	195	206	219	216	218	216	<b>154</b>	<b>△28.3%</b>
事務費	234	237	236	247	221	280	233	<b>283</b>	<b>21.5%</b>
減価償却費	131	135	135	130	144	141	143	<b>122</b>	<b>△15.0%</b>
租税公課	11	11	12	11	13	10	12	<b>15</b>	<b>25.5%</b>
貸倒引当金繰入れ	0	△0	—	—	—	—	—	—	—
その他	15	18	13	26	11	12	9	<b>19</b>	<b>109.5%</b>
<b>販売費・一般管理費合計</b>	<b>1,801</b>	<b>1,641</b>	<b>1,633</b>	<b>1,527</b>	<b>1,332</b>	<b>1,338</b>	<b>1,260</b>	<b>1,112</b>	<b>△11.7%</b>

(主要な費目)

広告宣伝費(※1)	147	130	125	124	130	58	72	<b>79</b>	<b>9.9%</b>
システム関連費用(※2)	399	340	359	380	357	408	362	<b>349</b>	<b>△3.5%</b>

※1 取引関係費の一部となります。 ※2 取引関係費、不動産関係費、事務費の一部となります。

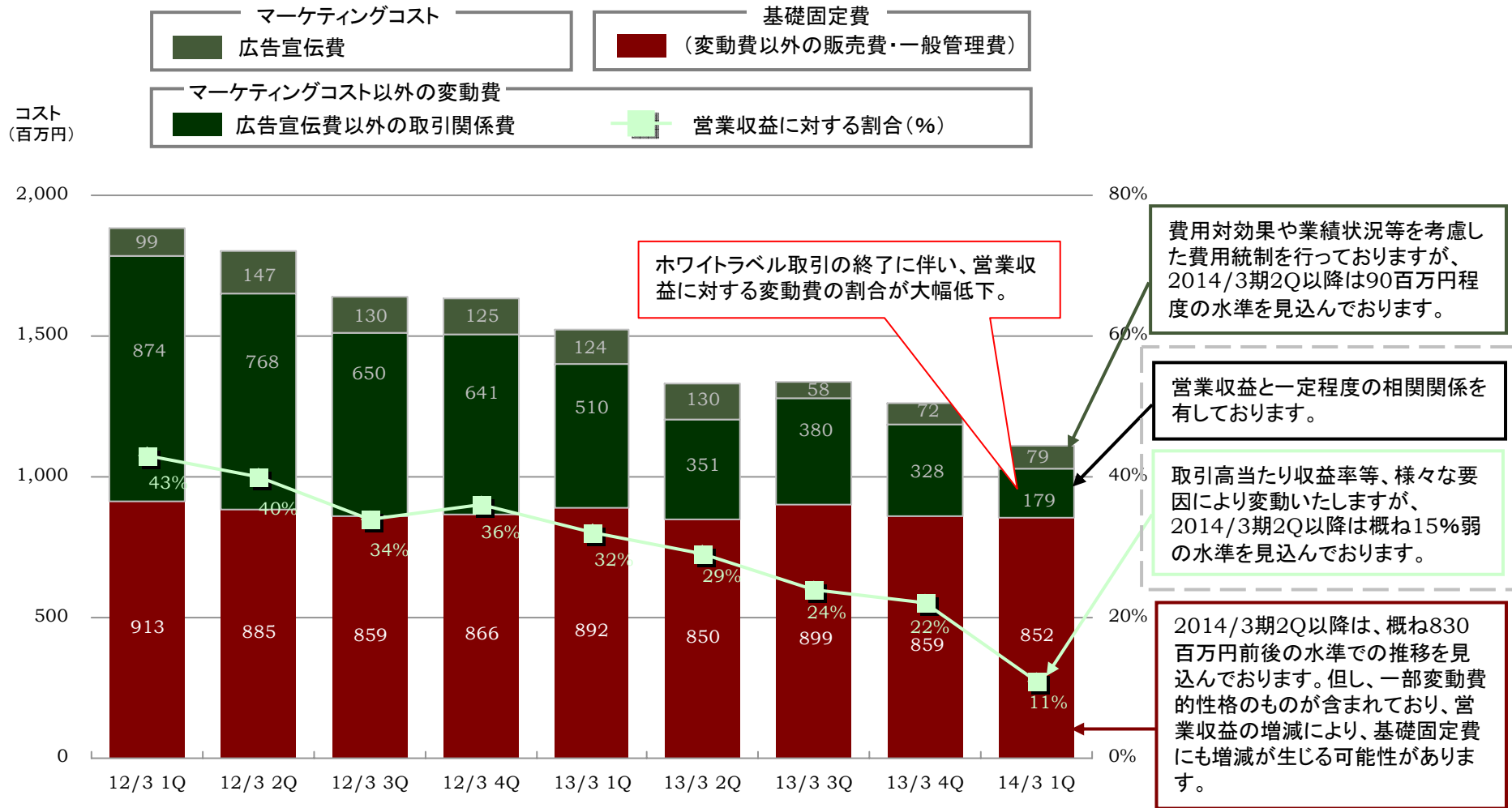
1. 取引関係費はホワイトラベル取引の終了等の影響により前四半期比35.3%減少の259百万円。
2. ホワイトラベル取引終了に伴い不動産関係費が減少した一方、システム関連の事務費が増加したため、システム関連費用全体としては、前四半期比3.5%減少の349百万円。
3. その他として総会費用等が約10百万円発生しているため、コスト全体では前期比11.7%減少の1,112百万円。



Money Partners Group

# 四半期固定費・変動費推移と今後の動向

## ■ 主要な固定費・変動費の推移



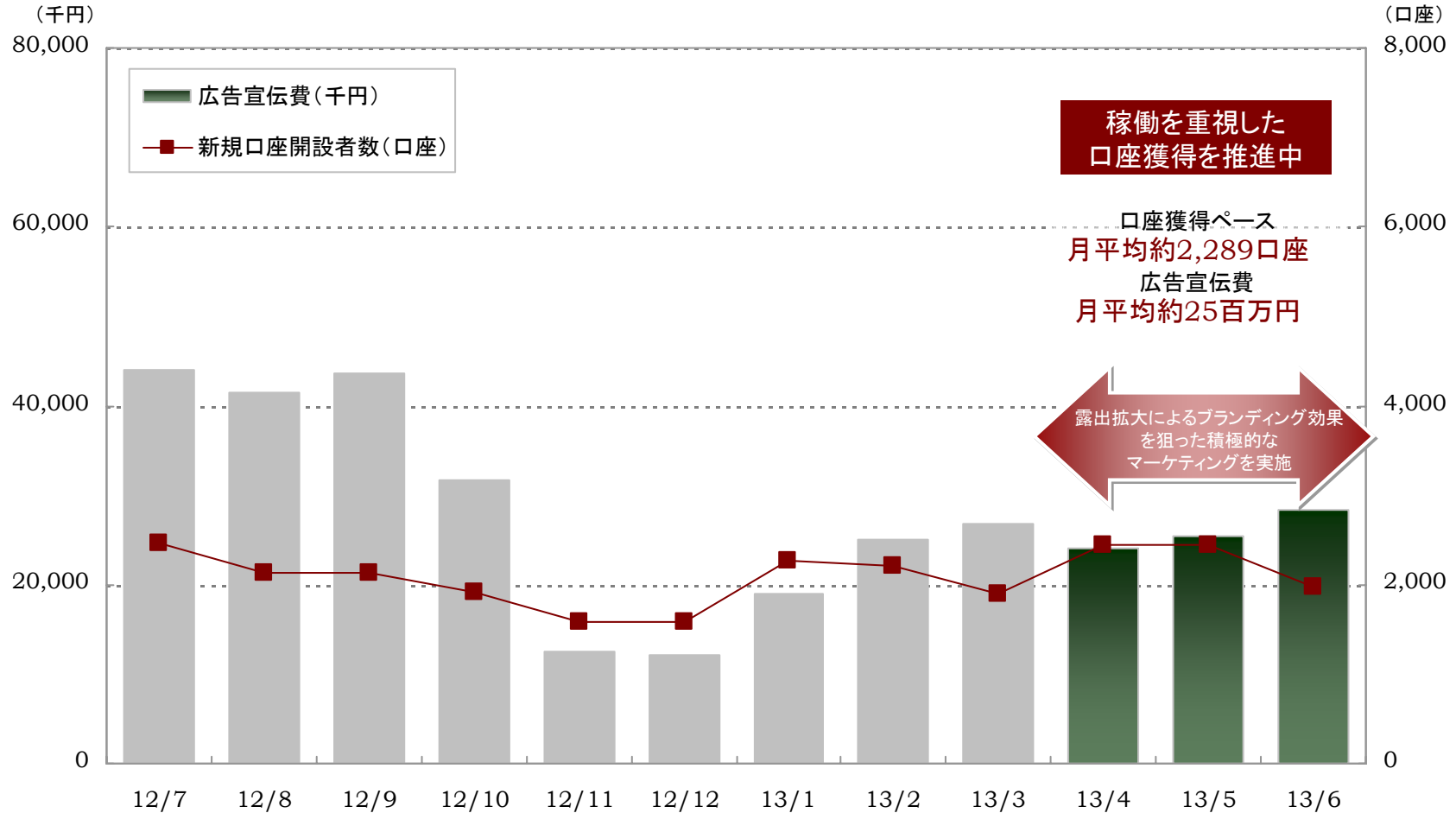
ホワイトラベル取引終了に関わらず営業収益が微増となった結果、変動費の割合が11%まで低下。基礎的固定費は、前四半期比微減ながら営業収益の堅調な水準に一部連動し見込みから上振れ。



# 月次広告宣伝費の推移

Money Partners Group

## ■ 広告宣伝費及び新規口座開設者数の推移



為替への注目の高まりにより、露出の拡大を図り広告宣伝費が9.9%増加。堅調な新規口座獲得を実現。



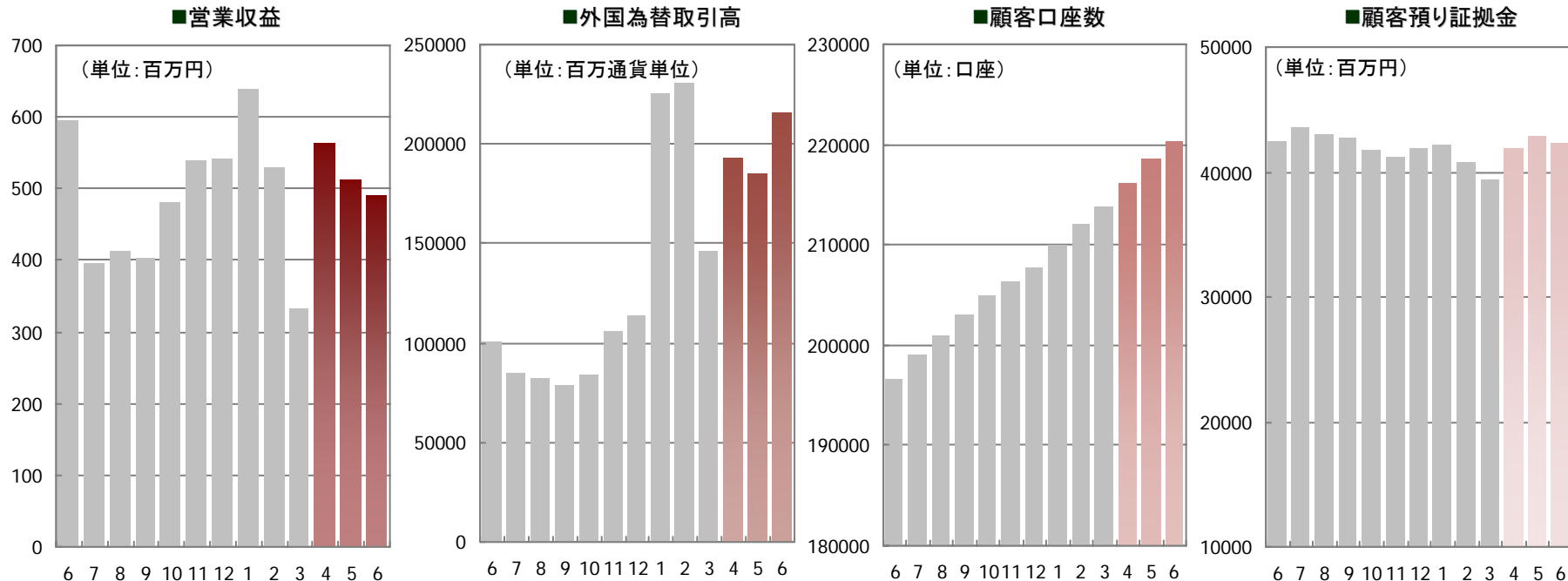
# 月次業績指標推移

Money Partners Group

## ■ 月次営業収益、外国為替取引高、顧客口座数、顧客預り証拠金の推移

	2012年							2013年					
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
営業収益(百万円)	596	396	412	404	482	539	542	639	531	333	565	514	490
外国為替取引高 (百万通貨単位)	100,449	84,479	81,991	78,794	83,547	105,437	113,982	225,359	231,130	146,144	193,096	185,542	216,211
顧客口座数(口座)	196,680	199,051	201,086	203,125	204,938	206,375	207,859	210,010	212,103	213,850	216,178	218,537	220,361
顧客預り証拠金(百万円)	42,495	43,576	43,005	42,796	41,718	41,219	41,929	42,139	40,774	39,321	41,940	42,801	42,327

※営業収益、取引高は、ホワイトラベル提供及び大証FXマーケットメイク業務に伴い発生した収益・取引を含んでおります。顧客預り証拠金は、ホワイトラベル提供に伴う預り証拠金を含んでおります。それぞれの計数には2011年8月より開始したCFDに関する数値を含めております。



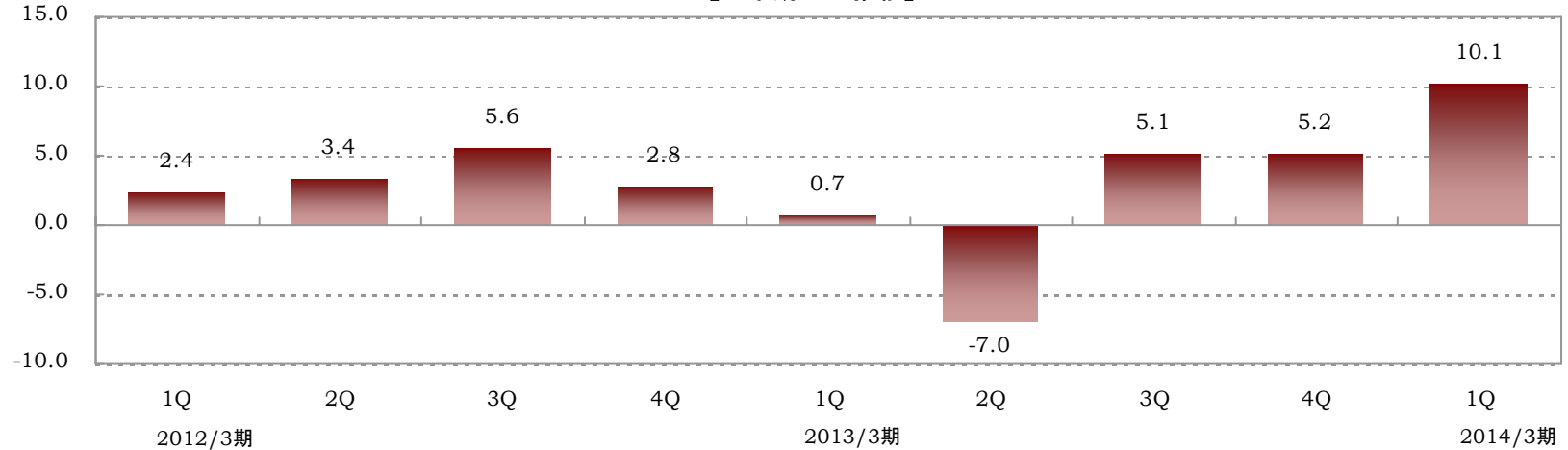


# 主要経営指標推移

Money Partners Group

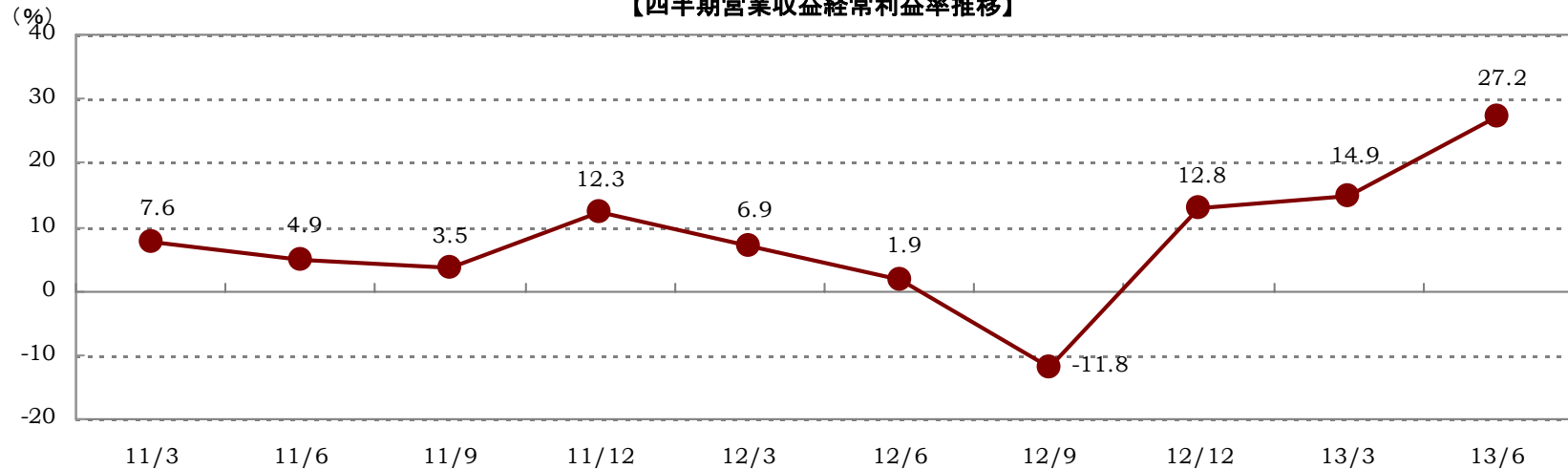
## ROE及び営業収益経常利益率推移

### 【四半期ROE推移】



※: 四半期ROEにつきましては、下記計算式により年換算して算出しております。  
 $ROE(年換算) = (四半期純利益 \times 4) \div ((四半期期首自己資本 + 四半期期末自己資本) \div 2) \times 100$

### 【四半期営業収益経常利益率推移】



## Ⅱ.2014年3月期第1四半期の重点施策の進捗状況







# 2014年3月期の重点施策

## 重点課題

収益力強化

顧客基盤拡大  
取引機会創出

取引当たり  
収益性

ブランディング

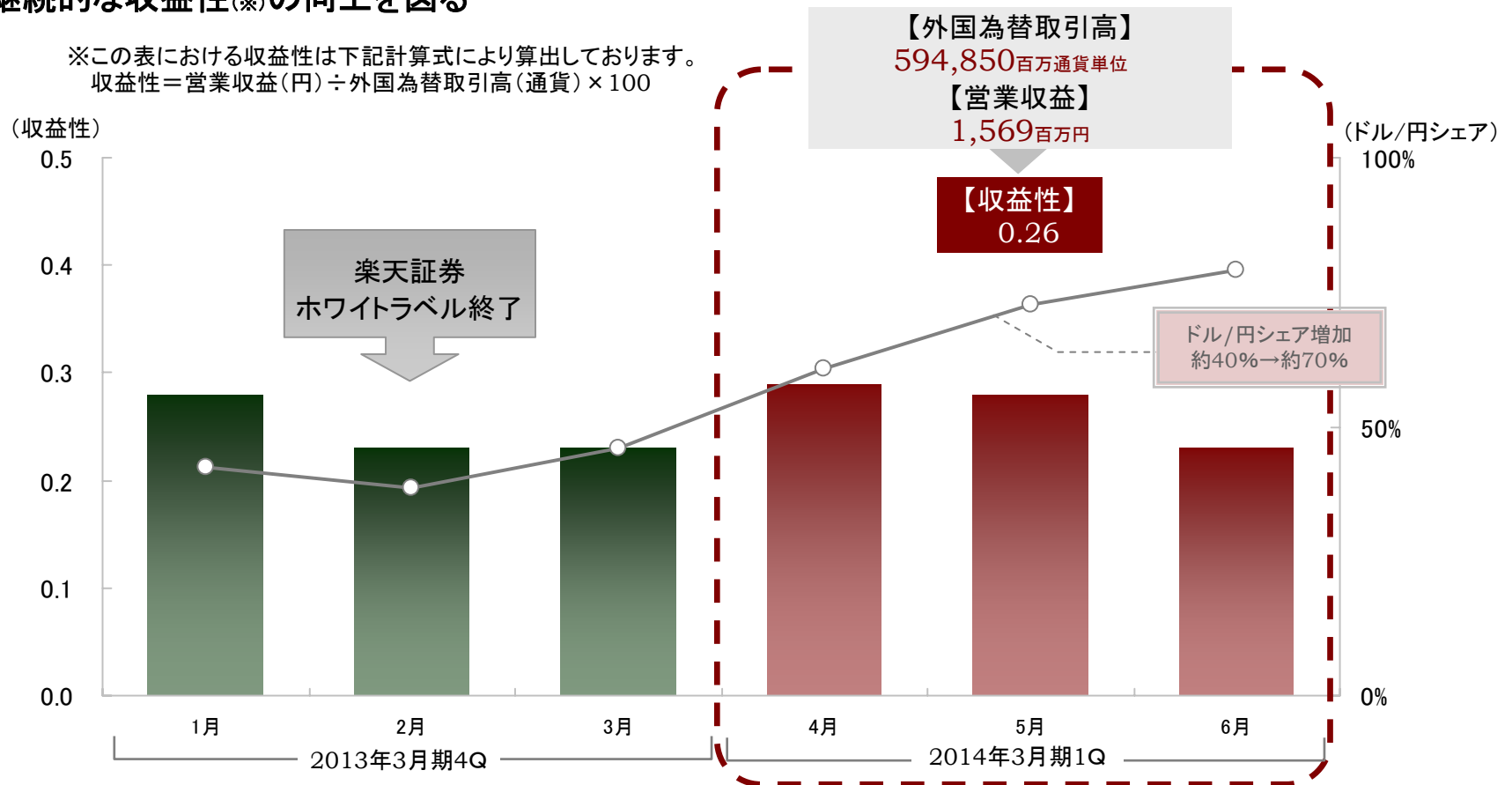
## 重点施策

- ・新基幹システムの本格稼動に伴うカバー手法のブラッシュアップ

- ・マス向けメディア展開、商品展開によるライトユーザーの取込
- ・ツール平易化、取引サポート中心の機能改善によるビギナー層獲得

## 基幹システム刷新による収益性改善

- ◆ 約定系、顧客系システムの更なるチューニング及びカバー手法の改善等によって継続的な収益性(※)の向上を図る



低スプレッド通貨の取引高割合の増加にも関わらず取引高当たり収益性は向上



Money Partners Group

# 重点施策の進捗状況

ブランディング強化とマス戦略展開による顧客獲得

**お得で便利!**

**マネパの外貨両替・受取サービス**

なんと最大 **98%OFF** 両替手数料

浮いたお金でショッピング♪

利用者急増中!

成田・羽田・関空・セントレア

**空港内「最安コスト」で外貨が受け取れます!**

(※)

(※) 両替手数料比較 (2013年7月1日現在、当社調べ)

羽田・セントレアでも外貨が受け取れるようになりました!  
**受取は羽田7/19、セントレア8/9から開始!**



Money Partners Group

# 重点施策の進捗状況

## ブランディング強化とマス戦略展開による顧客獲得

### ◆ メディアへの露出と受け取り拠点の追加による実需サービス強化

#### メディア掲載による顧客認知

2011年、3/28外貨両替・受取サービス開始後、新聞やテレビなどのメディアへ広く露出

掲載日	メディア及び「タイトル」
2012年06月13日	日本経済新聞夕刊 「低料金の両替サービス多様に」
2012年06月24日	日本経済新聞朝刊 「関空でも外貨受け取り」
2012年07月04日	日本経済新聞朝刊 「旅上手の外貨両替」
2012年11月21日	日本経済新聞夕刊 「取引各社、相次ぎ新サービス」
2013年07月11日	日経新聞朝刊 「第7部変革の波(2)FXの賢者たち」
2013年04月10日	日経CNBC 「アクロスザマーケット」
2013年04月22日	日経CNBC 「アクロスザマーケット」
2013年06月20日	テレビ東京 「ワールドビジネスサテライト」

#### 空港での顧客認知

より多くの実需ユーザーの取り込みのため羽田空港、中部国際空港を追加



裾野の広い外国為替取引初心者層・実需層からの顧客獲得導線を構築

## ブランディング強化とマス戦略展開による顧客獲得

### ◆ 商品性を改良しビギナー層向け施策に注力した新しい「nano」

少額FX取引の元祖！


**100 nano** 100円からの本格FX!!  
新しい nano はじまる。



6/24  
リニューアル

商品性  
改良

【新nanoの特徴】

- スプレッドの更なるナロー化  
→  米ドル円スプレッド0.3銭など  
業界最安水準を実現
- 取引ツールとの連動

PartnersFX  
『クイック発注ボード』



HYPER SPEED Touch  
『HyperSpeedTouch』



7月22日  
Android版リリース

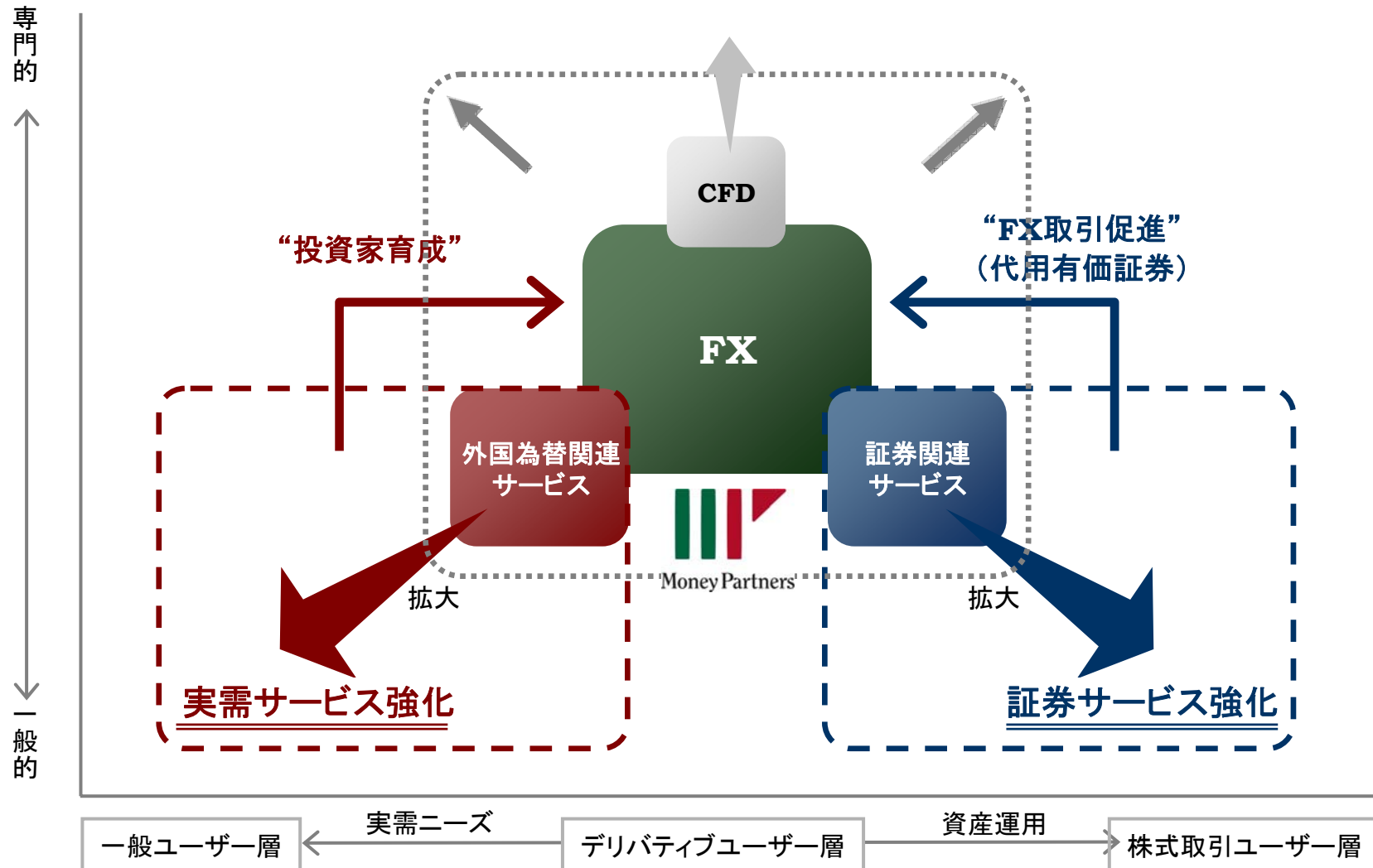
7月30日  
IOS版リリース

実需層・ビギナー層からの顧客獲得ルート確立に取り組み、マス戦略展開を推進

### Ⅲ. 今後の目指すべき方向性

---





実需サービス・証券サービスの強化拡大を通してコア事業であるFX事業の成長を実現する

## IV. 当社の経営目標及び株主還元について

---





## ROE及び営業収益経常利益率の早期回復

- 当社は、企業価値の最大化のため自己資本を効率的に活用することを重視しております。
- このために効率的な収益構造の実現を目指して参ります。
- 効率性を計る尺度として、自己資本利益率(ROE)及び営業収益経常利益率を重要な経営指標として位置づけております。

▶ **2014年3月期第1四半期(2013年4~6月)のROEは10.1%**

※: 四半期ROEにつきましては、下記計算式により年換算して算出しております。  
ROE(年換算) = (四半期純利益 × 4) ÷ ((四半期期首自己資本 + 四半期期末自己資本) ÷ 2) × 100

▶ **2014年3月期第1四半期(2013年4~6月)の営業収益経常利益率は27.2%**

営業収益の回復を早期に実現することにより、ROE及び営業収益経常利益率の回復を目指して参ります。



# 株主還元について

## 業績向上に取り組み、株主利益の向上に努める

### 利益還元方針

配当性向 … 連結当期純利益の**30%**を目処

配当機会 … **中間及び期末**(年2回)

	2013年3月期				2014年3月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
当期純利益 (百万円)	16	△167	122	124	<b>247</b>			
配当金の総額 (百万円)	—※		30					
期末発行済 株式総数(株)	321,480 (内、自己株式20,023)				<b>321,480</b> (内、自己株式 20,023)			
1株当たり 配当金	0円※		100円					

※2013年3月期の中間配当金につきましては、無配とさせていただきます。

当社株式を長期保有していただいている株主の皆様に対し、配当性向の引き上げや年2回の配当実施による利益還元機会の充実を図ってまいりました。今後も、株主利益の最大化を目指して参ります。

## 第9期定時株主総会の日曜開催

当社は、株主総会を「株主の皆様と会社経営陣との大切な対話の場」ととらえ、できる限り多くの株主の皆様にご出席いただけるよう、本年も定時株主総会を**日曜日**に開催いたしました。総会後の懇親会も含め**約200名**の株主様にご出席いただきました。



## 取扱い商品に係るリスク及び手数料等について

パートナーズFX、パートナーズFXnanoおよびCFD-Metalsは、取引時の価格またはスワップポイントの変動、およびスワップポイントは支払いとなる場合があることにより、売付時の清算金額が買付時の清算金額を下回る可能性があるため、損失が生じるおそれがあります。また、証拠金の額以上の投資が可能のため、その損失の額が証拠金の額を上回るおそれがあります。売付価格と買付価格とには差額(スプレッド)があります。

取引手数料は無料です。ただしパートナーズFXについては、受渡取引に限り、1通貨単位あたり最大0.40円の手数料をいただきます。

パートナーズFXおよびパートナーズFXnanoの取引に必要な証拠金は、取引の額の4%以上の額で、証拠金の約25倍までの取引が可能です。法人コースの場合は、取引の額の0.5%以上の額で、証拠金の約200倍までの取引が可能です。

CFD-Metalsの取引に必要な証拠金は、取引の額の5%以上の額で、証拠金の約20倍までの取引が可能です。国内上場有価証券の売買等に当たっては、最大で約定代金の2.625%の手数料(消費税込み)、最低手数料は取引形態等により異なり最大で2,625円(消費税込み)をいただきます。国内上場有価証券等は、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の価格の変動等および有価証券の発行者等の信用状況(財務・経営状況を含む)の悪化等それらに関する外部評価の変化等を直接の原因として損失が生ずるおそれ(元本欠損リスク)があります。

取引開始にあたっては契約締結前書面を熟読、ご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願い致します。

〈商号〉株式会社マネーパートナーズ(金融商品取引業者・商品先物取引業者)

〈金融商品取引業の登録番号〉関東財務局長(金商)第2028号

〈加入協会〉日本証券業協会 一般社団法人金融先物取引業協会 日本商品先物取引協会

# 2014年3月期第1四半期 決算説明会



Money Partners Group

株式会社マネーパートナーズグループ